

## 異校種（小・中学校）で 授業参観を始めました！

小学校と中学校の「教員」をつなぐことを通じて、小学生と中学生の「学び」と「育ち」をつなぐ「小中一貫教育の推進」を図っていきます。

令和7年度から始まる小中一貫教育に向けて、各学校が実施する校内授業研究会で、小学校と中学校の先生方が積極的に授業を参観し合い、授業力の向上と児童・生徒の理解を深めながら、さらに、小・中学校の教科指導や生徒指導の違いを理解し尊重し合うことによって、小学校文化と中学校文化の融合に繋がることを願っています。

1学期は、伊草小学校の石崎先生と川島中学校の武内先生に授業を公開していただきました。また、各学校からの参観者もありました。

そこで、公開授業の内容と参観者の感想を紹介いたします。

令和4年7月4日（月）第5校時

伊草小 3年2組 石崎美羽 教諭

「道徳」（あと、ひと言）



ゲームに飽きた友達が、主人公（ぼく）に、となりの家の塀の上を歩こうと誘ってきました。しかし、主人公（ぼく）は、その誘いをはっきりと断れず、小さな声で「ぼくは、やっぱりやめとく。」というのが精いっぱいでした。その後、その友達が塀から落ち、大けがをしたことを母から知らされました。母親からは「えらかったけど、でも、少し足りなかったわね。」と言われます。石崎先生は、主人公（ぼく）に足りなかったものは何だろうか？と子ども達と一緒に考える。主人公（ぼく）の葛藤を共有させながらも、グループでの話し合い活動を取り入れながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を提案してくれました。

[参観者の感想]

- 「主体的・対話的で深い学び」になるよう「バレーボール型」の授業を目指したい。
- 題名提示の仕方、範読や2分法、ワークシートの工夫等、子ども達の思考を大切にしていた。

令和4年7月13日（水）第1校時

川島中 1年1組 武内泰敬 教諭

「数学」（一次方程式）



3月から月に一度500円貯金をしている武内先生。

しかし、事件が！武内先生のお子さんが知らないうちに1円玉を何枚かその貯金箱の中に入れてしまいました。武内先生は、「貯金箱を壊すことなく何枚の1円玉が入っているか〈課題〉が分かる」と言います。生徒達は必死にこの課題に挑みます。課題解決のための情報は、武内先生が握っています（貯金箱全体の重さ、500円玉一枚の重さ等）。必要な情報は、グループで相談し武内先生の所まで行ってもらって来ます。スクールタクトを効率よく使い、個々の生徒の学習状況を把握しながら授業を進め、一次方程式の立式から課題の解決に結び付けました。

[参観者の感想]

- 「知りたい→情報を収集→考える」を繰り返し課題を解いた。
- 小・中の連携でポイントとなる「子供が自ら考え学ぶ授業」を見ることができた。
- スクールタクトの活用を始めて見た。とても興味深い。